

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和8年10月30日時点

	開催日時	開催形式（場所）	名称
1	11月2日(月) 13:00～17:55	日本学術会議講堂	公開シンポジウム「動物を用いた研究と教育の新たな地平 ―「動物実験の2006年体制」発足から20年、動物福祉を踏まえて拓く未来―」
2	11月3日(火) 13:00～16:00	国立京都国際会館	共同主催国際会議市民公開講座「あなたの毎日にひそむ窒素～食と環境のつながりを未来に向けて考える～」
3	11月6日(金) 13:00～17:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「計算科学と産業を結ぶAI時代の人材循環型エコシステムのあり方」
4	11月10日(火) 9:00～11:30	神戸国際会議場	公開シンポジウム「大型プロジェクトによるバイオマテリアル研究開発」
5	11月14日(土) 13:00～17:00	ハイブリッド (徳島大学蔵本キャンパス)	中国・四国地区会議学術講演会「栄養学を起点とした大学の知と地域・産業の新しい共創エコシステム」
6	11月14日(土) 13:30～17:50	ハイブリッド (北海道大学学術交流会館)	北海道地区会議学術講演会「日本の教育制度のアップデートを考える」
7	11月28日(土) 13:00～15:05	オンライン開催	公開シンポジウム「動物の安楽死を考えるIII」
8	11月28日(土) 13:00～17:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「植物病虫害・雑草管理の再構築 ―IPMへの取り組みを中心に―」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

公開シンポジウム

2026 **11.2** MON

13:00▶17:55

日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34

入場無料・定員 250 人・要事前予約



動物を用いた研究と教育の 新たな地平

「動物実験の2006年体制」発足から20年、動物福祉を踏まえて拓く未来

20年の検証から、科学と動物福祉の次の20年へ。
医療と生命科学を支える動物実験は、どう変わり、どこへ向かうのか。

2006年、法改正や関係省庁の指針、日本学術会議のガイドラインにより、研究・教育における新たな枠組みである「**動物実験の2006年体制**」が確立されました。それから20年。これまでの成果と課題を振り返りながら、科学的・倫理的な適正性を確保し、動物福祉と透明性をさらに高めていくための道筋を考えます。科学の発展と動物福祉の向上をともに目指し、社会の理解と信頼に支えられた研究の未来を考える公開シンポジウムです。



主催：●日本学術会議基礎医学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会・食料科学委員会・臨床医学委員会・薬学委員会合同動物実験分科会
●基礎医学委員会 ICLAS 分科会
●基礎医学委員会

後援：一般社団法人日本解剖学会、一般社団法人日本生理学会、公益社団法人日本薬理学会、公益社団法人日本心理学会、公益社団法人日本実験動物学会、日本自律神経学会、日本動物心理学会、一般社団法人日本動物実験代替法学会、特定非営利活動法人日本分子生物学会、一般社団法人日本動物実験代替法学会、一般社団法人日本医学会連合、日本脳科学関連学会連合、日本痛み関連学会連合、日本薬学会連合、一般社団法人全国医学部長病院長会議、厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会、国立大学法人動物実験施設協議会、公私立大学実験動物協議会、特定非営利活動法人動物実験関係者連絡協議会、一般社団法人日本実験動物医学専門医協会、一般社団法人日本実験動物技術者協会

Program

- 13:00 **開会の挨拶**
五十嵐 和彦 (日本学術会議第二部会員／東北大学大学院医学系研究科教授)
- 13:05 **挨拶**
尾崎 紀夫 (日本学術会議第二部会員／名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学特任教授) (ビデオ登壇)
- 13:10 **挨拶**
大隅 典子 (日本学術会議連携会員／独立行政法人日本学術振興会理事／東北大学名誉教授／東北大学客員教授) (ビデオ登壇)
- 13:15 **来賓紹介**
- 13:25 **セッション1 「わが国の動物実験の現在」**
進行：金井 正美 (日本学術会議連携会員／東京科学大学医歯学総合研究科教授)
- 13:25 **『セッション1の企画意図と論点』**
金井 正美 (日本学術会議連携会員／東京科学大学医歯学総合研究科教授)
- 13:30 **『動物実験の2006年体制とは何か？－その成立の経緯』**
加藤 総夫 (日本学術会議連携会員／東京慈恵医科大学 名誉教授)
- 13:45 **『2006年体制はどのように機能してきたか－2025年環境省調査結果から』**
三浦 竜一 (日本学術会議連携会員 (特任)／東京大学ライフサイエンス研究倫理支援室教授)
- 14:00 **『機関管理方式とその基盤としての外部検証制度』**
越本 知大 (宮崎大学フロンティア科学総合実験センター長 生命科学研究支援部門教授)
- 14:15 **『人文・社会科学領域の教育と研究における動物実験』**
坂上 雅道 (日本学術会議連携会員／金沢工業大学人間情報システム研究所／バイオ・化学部教授)
- 14:30 **『野生動物研究と動物福祉』**
村山 美穂 (日本学術会議第二部会員／京都大学野生動物研究センター教授)
- 14:45 **『非げっ歯類研究と動物福祉』**
山崎 由美子 (日本学術会議連携会員／新潟医療福祉大学心理・福祉学部心理健康学科教授)
- 休憩
(20分) (15:00～15:20)
- 15:20 **セッション2 「わが国の動物実験の未来」**
座長：村山 美穂 (日本学術会議第二部会員／京都大学野生動物研究センター教授)
- 15:20 **『最新医療技術 (iPS医療、ゲノム編集・異種間移植) と動物実験』**
岡野 栄之 (日本学術会議連携会員／慶應義塾大学医学部教授・再生医療リサーチセンター長)
- 15:35 **『統合的生体機能解析の未来－動物実験によらない新たな評価手法の可能性と限界～国際的状況を踏まえて』**
平林 容子 (国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター長)
- 15:50 **『先進動物ゲノム編集が医療にもたらしたもの』**
真下 知士 (東京大学医科学研究所実験動物研究施設教授)
- 16:05 **『病態モデルが拓く科学と医療の未来』**
竹尾 透 (熊本大学生命資源研究・支援センター教授)
- 16:20 **『動物実験をめぐる国際情勢－国際実験動物科学評議会 (ICLAS) の70年の活動』**
入来 篤史 (日本学術会議連携会員／帝京大学先端総合研究機構特任教授)
- 休憩
(20分) (16:35～16:55)
- 16:55 **セッション3 総合討論**
座長：加藤 総夫 (日本学術会議連携会員／東京慈恵医科大学 名誉教授)
入来 篤史 (日本学術会議連携会員／帝京大学先端総合研究機構特任教授)
- 16:55 **指定発言1 『動物実験に関する市民の意識調査』**
打越 綾子 (成城大学法学部教授)
- 17:10 **指定発言2 『日本学術会議第26期動物実験分科会の議論を振り返って』**
城石 俊彦 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所バイオリソース研究センターセンター長)
- 17:25 **意見交換**
- 17:50 **総括**
古屋敷 智之 (日本学術会議第二部会員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科教授)
- 17:55 **閉会**

総司会：宇山 恵子 (東京科学大学副理事 (広報担当))

あなたの毎日にひそむ窒素

～食と環境のつながりを未来に向けて考える～



日時

2026年11月3日(火・祝)
13:00～16:00(12:30 受付開始)

会場

国立京都国際会館 Room D
京都市営地下鉄烏丸線 国際会館駅下車 徒歩5分

講演 1 大切なのに目立たない窒素のこと
(林 健太郎 総合地球環境学研究所 教授)

講演 2 南極で学んだ食品ロス削減
(渡貫 淳子 第57次南極地域観測隊 調理隊員)

講演 3 不知火海流域ローカルフードネット～地元食がごちそう～
(天野 浩 天の製茶園 代表取締役)

講演 4 子どもたちと土を育む～小学校における「コンポスト授業」の実践～
(塩谷 暁代 京都大学 特定助教)

講演 5 死んだ動物はだれに食べられるのか?
(橋詰 茜 総合地球環境学研究所 研究員)

講演 6 いい牛を育ててサンゴを守ろう!～農家の行動が海を救う「意外な」仕組み～
(安元 純 総合地球環境学研究所 准教授/琉球大学 助教)

2

**参加費
無料**※事前申込からの
抽選となります参加申込
はこちら申込締切:
2026年10月20日(火) 正午
※抽選結果は10月23日までに配信する予定です

問い合わせ先: 第10回国際窒素会議運営事務局 n2026@nta.co.jp

主催: 第10回国際窒素会議組織委員会、総合地球環境学研究所、日本学術会議(予定)

後援: 京都府、京都市、京都文化交流コンベンションビューロー、京都新聞

**フェスタ**
国立大学2026

公開シンポジウム

主催

- ◆ 日本学術会議 総合工学委員会
- ◆ 日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同 / 計算科学シミュレーションと工学設計分科会

共催

一般社団法人日本機械学会 / 一般社団法人日本応用数理学会 / 一般社団法人日本計算工学会 /
一般社団法人日本シミュレーション学会 / 一般社団法人可視化情報学会 / 日本計算数理工学会 / 国際計算力学連合 /
アジア太平洋計算力学連合 / 日本計算力学連合 / CAE懇話会

後援

公益社団法人日本自動車技術会

SIMULATION × DATA × AI

計算科学と産業を結ぶ AI時代の人材循環型 エコシステムのあり方

現状と課題、そして将来への展望を、6つの視点と総合討論で描く。

| 日時

2026年11月6日（金）13:00 – 17:30

令和8年

| 会場

日本学術会議 講堂（東京都港区六本木 7-22-34）

ハイブリッド開催（会場+オンライン）

| 参加

参加費無料

一般参加可・事前申し込み必要

◆ 開催趣旨

計算科学シミュレーションを取り巻く環境は、データサイエンスや人工知能（AI）の急速な進展・普及により、特にこの数年で大きく様変わりしている。本シンポジウムでは、国産ソフトウェア開発、人材育成、地域まで含めた幅広い産業における計算科学シミュレーションの活用、データやAIの利用といった複数の視点から、現状と課題、将来への期待や展望などについて講演が行なわれる。また、講演の内容を踏まえて、計算科学と産業を結ぶ“AI時代の人材循環型エコシステム”のあり方、その構築のための仕組み作りや課題について議論を行なう。

参考文献：見解「計算科学を基盤とした産業競争力強化を推進する人材育成とエコシステムのあり方」

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-k230901.pdf>

国産ソフトウェア開発

人材育成

地域産業

材料データ

シミュレーション×AI

次世代情報基盤

REGISTRATION / 参加申込

一般参加可・参加費無料 / 事前申し込みが必要です

<https://forms.gle/RW62Z2MhYfr5kRng8>

右のQRコードからもお申し込みいただけます。



参加申込フォーム

次 第 / PROGRAM

2026年11月6日（金）13:00 - 17:30
日本学術会議 講堂（ハイブリッド開催）

総合司会：大出 真知子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人物質・材料研究機構 構造材料研究センター計算構造材料グループ 主任研究員）

13:00 - 13:05 開会の辞

越塚 誠一 日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授

13:05 - 13:15 シンポジウム趣旨説明

佐々木 直哉 日本学術会議連携会員、山形大学工学部客員教授、立命館大学総合科学技術研究機構客員教授

第 1 部

計算科学の産業利用 ― 現状・課題・今後への期待と展望 ～様々なコミュニティからの視点～

13:15 - 13:40 視点1 | 国産ソフトウェア開発と普及

並列有限要素法構造解析プログラム FrontISTR（フロントアイスター）の開発・改良・メンテナンス・普及などの活動を通じての所見

奥田 洋司 東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻教授

13:40 - 14:05 視点2 | 人材育成 ～学生から社会人まで～

計算物質科学コミュニティにおける人材育成活動

下司 雅章 一般財団法人高度情報科学技術研究機構（RIST）次世代HPC・AI研究開発支援センター（HAIRDESC）副センター長

14:05 - 14:30 視点3 | 地域産業における計算科学シミュレーション活用と人材育成

ひろしまデジタルイノベーションセンターの取り組み

安藤 誠一 公益財団法人ひろしま産業振興機構 ひろしまデジタルイノベーションセンター技術統括マネージャー

14:30 - 14:55 視点4 | データベース

材料データの創出と蓄積

源 聡 国立研究開発法人物質・材料研究機構 技術開発・共用部門 材料データプラットフォーム プラットフォーム長

14:55 - 15:20 視点5 | 計算科学シミュレーション × データ × AI

計算科学シミュレーション×AIを基盤とした産業競争力強化に関する企業の取り組み

坂井 靖文 富士通株式会社 人工知能研究所 ディスカバリーAI CPJシニアリサーチマネージャー

15:20 - 15:45 視点6 | 計算科学シミュレーションを支える情報基盤 ～国の取り組み～

「AI for Science」を支える次世代情報基盤 ― AI時代の情報基盤、人材育成

栗原 潔 文部科学省 研究振興局 計算科学技術推進室長

休 憩（15分） 15:45 - 16:00

第 2 部

総合討論 ― 計算科学と産業を結ぶAI時代の人材循環型エコシステムのあり方

16:00 - 17:25 パネルディスカッション

司会：金田 千穂子（日本学術会議連携会員、東北大学国際集積エレクトロニクス研究開発センター教授）

パネリスト：講演者6名 および 宇佐見 護（株式会社アスミス 代表取締役社長）

17:25 - 17:30 閉会の辞

金田 千穂子 日本学術会議連携会員、東北大学国際集積エレクトロニクス研究開発センター教授

医療機器、人工臓器、機能分子などの素材となるバイオマテリアルの研究開発には
材料科学・工学、分子化学、機械工学、生体工学、生命科学、臨床医学、歯学、薬学など
の学術融合とこれらの分野に所属する研究者の統合的な取組みが重要である。
本公開シンポジウムでは、大型プロジェクトによる学術研究をバイオマテリアル・医療機
器の研究開発に役立てる方策について討論し、今後の学術研究戦略を展望する。

2026

11.10 Tue. 9:00~11:30 

神戸国際会議場 兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目9-1

一般参加費 無料
申込不要

Program

(所属・職名は2026年9月1日現在)

9:00-9:05 開会挨拶・趣旨説明

中野 貴由 (日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科教授)

9:05-11:25 講演

司会：大矢根 綾子 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所材料基盤研究部門付)

岸田 晶夫 (日本学術会議連携会員、東京科学大学名誉教授)

「在宅医療を可能にする中空型マイクロニードルを用いた皮下間質液連続計測デバイスの開発：文部科学省-学術変革領域研究(A)：AMED-CREST」

高井 まどか (東京大学大学院工学系研究科教授)

「サステナブル材料開発に対する生体材料学の新展開：JST-CREST」

山本 雅哉 (東北大学大学院工学研究科教授)

「骨分解と安定化に倣う新規ヘルスケアマテリアル：JST-CREST」

松本 卓也 (日本学術会議連携会員、岡山大学学術研究院医歯薬学域教授)

「超生体組織の創製と新機能の創出プロジェクト：JST-CREST」

秋吉 一成 (日本学術会議連携会員、京都大学高等研究院特定拠点教授、京都大学名誉教授)

「サステナブル社会実現に向けた組織工学の新展開：内閣府-ムーンショット型研究開発制度」

清水 達也 (日本学術会議特任連携会員、東京女子医科大学先端生命医科学研究科教授)

「細胞外マトリックスのマルチモダリティ理解に基づく生体材料開発：文部科学省-学術変革領域研究(A)」

鳴瀧 彩絵 (東京科学大学総合研究院教授)

11:25-11:30 閉会挨拶

石川 邦夫 (日本学術会議連携会員、日本バイオマテリアル学会理事長、九州大学大学院歯学研究院教授)

主 催：日本学術会議材料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会・化学委員会 合同バイオマテリアル分科会

共 催：一般社団法人日本バイオマテリアル学会

協 賛：一般社団法人日本人工臓器学会、一般社団法人日本歯科理工学会、公益社団法人日本金属学会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人繊維学会、公益社団法人高分子学会、一般社団法人日本MRS、一般社団法人日本再生医療学会、日本DDS学会、一般社団法人日本骨代謝学会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人スマートプロセス学会、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)

大型プロジェクトによる
バイオマテリアル研究開発

日本学術会議中国・四国地区会議学術講演会

栄養学を起点とした

知と地域・産業の

新しい共創エコシステム

本講演会では、栄養分野における分野横断的な連携や社会実装が十分に進んでいない現状を踏まえ、地域課題の解決や産業創出に向けた取組の必要性を課題として提示する。その上で、栄養を単なる食や健康支援にとどめず、生命科学、医療、一次産業、地域政策をつなぐ科学的基盤として捉え直す。ゲノム編集、スマート養殖、口腔機能、臨床栄養、在宅・地域連携、産業化、行政施策の各視点から、大学の知が地域課題の解決と新産業創出にどのように結びつくかを議論し、徳島発の栄養・健康エコシステムの可能性を展望する。また、本講演会を通じて、大学、自治体、医療機関、企業など多様な主体の連携を促進し、科学的知見に基づく持続可能な地域づくりと健康長寿社会の実現に向けた新たな共創のあり方を共有するとともに、地域から全国へ展開可能なモデル形成についても考察する。

2026

11/14

13:00-17:00 土

会場

徳島大学 蔵本キャンパス
藤井節郎記念医科学センター
〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18番地の15

開催形式

対面/オンライン

[事前登録制]

参加申込

締切日：2026年11月10日(火)

<https://forms.cloud.microsoft/r/ZnE3DnW39?origin=IprLink>

※対面・オンライン共通



徳島大学 研究・産学企画課 J-PEAKS担当

TEL.088-615-2328 E-mail j-peaks@tokushima-u.ac.jp

●主催：日本学術会議中国・四国地区会議、国立大学法人徳島大学

Program

13:00-13:15 開会挨拶

堀 正敏（日本学術会議副会長・第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

松木 均（徳島大学理事・副学長）

13:15-13:25 趣旨説明

安友 康二（日本学術会議第二部会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部教授、徳島大学副理事）

13:25-16:50 講演

「ゲノム編集で食の上流を変える

—孵化前雌雄判別・感染症耐性が拓く持続可能な畜産—

竹本 龍也（徳島大学先端酵素学研究所教授、株式会社セツロテック代表取締役会長）

「餌料藻類培養から牡蠣養殖までをデータで繋ぐ：

徳島大学との共創がもたらす水産イノベーション」

岩本 健輔（株式会社リブルCTO）

「『食べる』を支え健康へと繋ぐ歯科的アプローチ」

松山 美和（徳島大学大学院医歯薬学研究部教授）

「『エネルギー密度』で生涯によりそう無理のない食べ方の「コツ」」

奥村 仙示（同志社女子大学生生活科学部准教授）

「臨床栄養の社会実装に向けた取り組み」

山岡 一平（株式会社大塚製薬工場メディカルフーズ研究所所長）

「徳島県における食と健康～well-beingの持続的実現に向けて～」

上田 紘嗣（徳島県副知事）

ーパネルディスカッションー

司会：北岡 和義（徳島大学教養教育院教授）

16:50-17:00 閉会挨拶

藪田 ひかる（日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議代表幹事、広島大学大学院先進理工系科学研究科教授）

お問合せ先

日本の教育制度のアップデートを考える

日時
令和8年(2026)

11月

14日(土)

13:30 ~ 17:50

場所

北海道大学学術交流会館 小講堂
(札幌市北区北8条西5丁目)

対面及びオンライン(zoomウェビナー)による
ハイブリッド開催



※駐車場はありませんので、公共交通機関等
でお越しください。

日本学術会議北海道地区会議学術講演会

参加方法◇事前参加申込制 申し込み締め切り11月9日(月) 定員◇対面150名、オンライン400名

参加費無料、どなたでも参加いただけます。参加を希望される方は、下記 URL 又は QR コードからお申し込み下さい。

<https://forms.gle/QxRZUauueEFCNMhg8>



現在の日本の教育制度ができたのは終戦直後であるが、その頃に比較して現在では大学や高校への進学率が目覚ましく上昇しているにもかかわらず、日本国民の大部分はいまだに大学の学部教育を卒業することを教育上の最終目標としている。しかし80年以上経過した今では、学ぶべきことも飛躍的に増えており、現状のマインドでは、種々の意味で将来の人材育成のためには障害がある。一例として、海外では大学院、特に博士課程への進学希望者が増加しているにもかかわらず、先進国の中で日本だけが博士課程への進学希望者が減少している。特に理系では大部分の分野で大学院修士課程までは既知のことを学ぶ“学習”が中心となり、未知のことを探究する“研究”が中心になるのは大学院博士課程になってからであることを考えると、上述のようなマインドでは日本国民全体にとって大きな問題となる。本講演会では日本の小学校、中学校、高等学校、大学学部、大学院修士課程、大学院博士課程からなる教育制度そのものを種々の立場から考え直し、さまざまな意味で現状の教育をアップデートすることを考える。

問い合わせ先

日本学術会議北海道地区会議事務局(北海道大学 研究推進部 研究振興企画課)

Tel・011-706-2155・2166

Fax・011-706-4873

e-mail・suishin*general.hokudai.ac.jp

(上記 mail アドレスの*マークを@に変えてお送りください。)

次第

司会

宇山 智彦

(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

美馬 のゆり

(日本学術会議第一部会員、
公立はこだて未来大学名誉教授、同大学特命教授)

開会の挨拶

関谷 毅

(日本学術会議副会長・第三部会員、大阪大学産業科学研究所教授)

講演 1

学び続ける教員であるために

—大学院で得たものと高校教育への還元—

米内山 大輝

(北海道苫小牧南高等学校教諭)

講演 2

研究者になった娘、学習塾を営む父

—受験勉強と研究室をつなぐもの—

水野 温

(ライオンズ学習塾 代表)

講演 3

まっすぐな道じゃなくても大丈夫

—「製造博士」の私が岩手ものづくりを

支える仕事に出会うまで—

大田 彩子

(岩手県工業技術センター主任専門研究員)

講演 4

「あったらいいな」、「できたらいいな」の

夢を実現するための教育ならびに研究活動

大和 隆志

(エーザイ(株) 上席執行役員 エクスターナルイノベーション担当、
事業開発付サイエンティフィックフェロー)

休憩

15:00~15:10

講演 5

課題先進地から課題解決先進地へ

—地方自治体の「前例なき課題」にどう向き合うか—

青山 剛

(室蘭市長)

講演 6

真なる探究心から、未来の価値づくりへ

—学部から大学院までをつなぐ人材育成を考える—

桃野 直樹

(室蘭工業大学理事・副学長)

講演 7

博士・修士人材育成の意義と重要性

—少子高齢化に伴う日本の高等教育システムの課題—

石原 一彰

(日本学術会議第三部会員、名古屋大学大学院工学研究科教授)

講演 8

博士人材も含む、新しい時代の科学技術
人材の育成・確保について

楠 凱斗

(文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課専門職)

パネルディスカッション

16:35~17:45

モデレーター：庭山 聡美

(日本学術会議連携会員、室蘭工業大学大学院工学研究科教授)

パネリスト：米内山 大輝、水野 温、大田 彩子、

大和 隆志、青山 剛、桃野 直樹、

石原 一彰、楠 凱斗

閉会の挨拶

17:45~17:50

有村 博紀

(日本学術会議第三部会員、北海道大学大学院情報科学研究院教授)

主催：日本学術会議北海道地区会議、北海道大学

後援：札幌市

動物の安楽死を考える III

— 科学・倫理・社会の視点から —

動物に関わる倫理的課題への社会的関心が高まる中、「安楽死」は、動物を不必要な疼痛や苦痛・苦悩から解放するための重要な獣医学的課題です。本シンポジウムでは、実験動物、伴侶動物、野生動物、シェルターメディスンの各分野における現状と課題について、専門家による講演を通じて理解を深め、我が国における科学的根拠に基づく安楽死のあり方を議論します。

動物福祉の
向上と
社会的理解の
促進をめざして



2026年 **11月28日** (土)
13:00 ~ 15:05



オンライン開催
(参加費無料)

どなたでも
ご参加
いただけます

プログラム

司 司 長 石塚 真由美 (日本学術会議連携会員 / 北海道大学獣医学研究院 教授)

座長 田中 亜紀 (日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科 特任教授) 中村 進一 (岡山理科大学獣医学部獣医学科 講師)

13:00

開会の挨拶

堀 正敏

(日本学術会議 第二部会員 / 東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医薬理学研究室 教授)

13:05

実験動物の安楽死を考える前に
— 動物実験・動物福祉・制度を知る —

坂本 雄二

(株式会社ケー・エー・シー)



13:35

実験動物と伴侶動物の安楽死を考える
— 実験動物医学専門医制度、麻酔科学、
米国獣医学会「動物の安楽死指針」を手がかりに —

佐々木 一益

(秋田県立循環器・脳脊髄センター 主任研究員 /
袋原どうぶつクリニック)



14:05

野生動物の保安全管理における
捕殺・安楽死と動物福祉
— 現場の現状と課題 —

森光 由樹

(兵庫県立大学大学院 (共生博物部門) 准教授)



14:35

シェルターメディスンにおける
安楽死とワンヘルス

木原 友子

(日本獣医生命科学大学 応用獣医学部門
野生動物学研究室 助教)



15:05

閉会の挨拶

高井 伸二

(日本学術会議 第二部会員 連携会員 / 北里大学 名誉教授)

主 催

日本学術会議 食料科学委員会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、
食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会

共 催

日本法獣医学会

参加申込

右のQRコードから
お申し込みください。





日本学術会議公開シンポジウム

植物病虫害・雑草管理の再構築

ーIPMへの取り組みを中心にー

「みどりの食料システム戦略」では、化学農薬使用量（リスク換算）の低減が掲げられています。一方、食料安全保障の重要性が高まり、病虫害の発生予防及びまん延防止も求められています。環境負荷の低減と安定的な食料生産を両立するため、IPMを中心とした病虫害・雑草管理の見直しが必要です。

本シンポジウムでは、制度・施策と生産現場の実践事例・課題を共有し、今後の植物病虫害・雑草管理の再構築を議論します。



令和8年(2026年)

11月28日(土) 13:00~17:20



日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-28-34）
ハイブリッド開催(会場・オンライン)



一般参加 可能 | 参加費無料

主 催

日本学術会議農学委員会
農学委員会植物保護科学分科会

共 催

日本植物保護科学連合

プログラム

13:00 開会挨拶

渡辺 京子（日本学術会議第二部会員／
植物保護科学分科会委員長／玉川大学農学部教授）

13:05 総合防除の実践が切り拓く病虫害・雑草防除 ～生産現場への浸透に向けた具体的方向性～

白石 正美（農林水産省消費・安全局植物防疫課防疫対策室長）
【座長】松本 宏（日本学術会議連携会員
／筑波大学名誉教授）

13:40 IPM再構築に向けた構成要素の探索 ー食品添加物・植物・微生物が拓く 新たな植物病害管理ー

池田 健太郎（法政大学生命科学部准教授）
【座長】越智 直（農研機構植物防疫研究部門上級研究員）

14:15 微生物除草剤による雑草管理の可能性と展望

泉 真隆（京都大学農学研究科助教）
【座長】黒川 俊二（京都大学農学研究科教授）

14:50 休 憩(10分)

15:00 ジャスモン酸を介した植物防御の制御と応用 ー害虫忌避剤の開発と新たな食用資源の創出ー

安部 洋（理化学研究所バイオリソース研究センター
専任研究員）
【座長】草島 美幸（慶應義塾大学法学部助教）

15:35 イノベーションの罫から抜け出すためのIPM

笠井 敦（静岡大学農学部生物資源科学科准教授）
【座長】大井田 寛（法政大学生命科学部教授）

16:10 農業生態系保全と総合的病虫害・雑草管理 における農薬が果たす役割

山本 敦司（東京農業大学客員教授）
【座長】水口 智江可（名古屋大学大学院
生命農学研究科准教授）

16:45~17:15 総合討論

【司会】西田 智子（日本学術会議連携会員／
農業・食品産業技術総合研究機構理事）

17:15 閉会挨拶

與語 靖洋（日本植物保護科学連合運営委員会副委員長
／日本植物調節剤研究協会技術顧問）



QRコードまたは下記のURLの
フォームよりお申込みください
<https://forms.gle/b4MVAAPpnG4LFWZi6>



フォームから申し込みができない場合は、
890090@eve.tamagawa.ac.jp までご連絡ください。
メールの件名は、
【病虫害シンポジウム】〇〇〇(要件) としてください。